あじさい①　お散歩

１歳児クラス１５名　１時間

活動

・散歩先で季節の花や虫を見つける。
・花や虫の名前に興味を持つ。

準備したもの
写真・絵本

○活動内容

・気温が涼しい日は、なるべく散歩に行き、地域の花壇等、季節の花が咲いている道を散歩する。
・グループタイムで、花や虫の名前を覚えられるように写真を見せながら話をする。
・部屋に花や虫の写真を貼ったり、乳児向け図鑑の絵本を用意する

○保育者の問いかけやアプローチ

・散歩の際には、季節の花や虫に触れられる場所を意図的に選び、子どもたちが自然と出会い、発見や気付きが生まれる環境を整えた。また、事前に花の種類や特徴、生息する虫について保育者自身が調べておくことで、子ども一人ひとりの興味や発見に寄り添いながら声掛けをした。
・「これはあじさいだね」「何色かな？」といった気付きのきっかけとなる声掛けに加え、「どうしてこんな色なんだろう？」「この花はどこにたくさん咲いているかな？」「この虫は何をしているのかな？」など、子どもが考えを巡らせたり、自分なりの言葉で表現したりできるような問いかけを大切にした。さらに、「さっき見た花と何が違うかな？」「触ってみるとどんな感じ？」といった比較や感覚に働きかける問いを通して、観察力や好奇心を育んだ。
・子どもたちのつぶやきや発見を「本当だね」「よく見つけたね」と共感しながら関わることで、安心して自分の気付きを表現できるよう心掛けた。まだ言葉でのやり取りが十分でない１歳児に対しては、保育者が気持ちや気付きを代弁しながら言葉を補い、やり取りを広げていくことで、主体的な関わりにつながるようにした。
・室内には花や虫の写真、図鑑などを身近な場所に掲示・配置し、子どもたちがいつでも見たり指差をしたりできる環境を整えた。「この前見た花はどれかな？」「また見つけられるかな？」といった問いかけを繰り返すことで、経験とイメージをつなげやすくし、興味や記憶が自然と広がるようにした。
・日々の経験を振り返りながら繰り返し関わることで、１歳児が安心して自然に触れ、見たり、指差をしたりしながら関心を深めていける環境を大切にした。

○子どもの様子

・元々少し花に興味があったので、散歩中に指を差して見ていたが、後半は花の名前を覚え、保育者が「これ何だっけ？」と問いかけると「あじさい」「つつじ」「あっちも」「ピンクね」と花の名前や色を言っていた。
・散歩先や園庭にはダンゴ虫やアリがたくさんいたので、一緒に見つけて観察したり、実際に触れることができた。虫に抵抗がある子もいたが、触れなくてもじっと見つめて動きを観察していた。

〇振り返り

・散歩先において子どもたちが季節の花に興味を示したことをきっかけに、その関心を遊びや日常の活動へと広げていくことができた点は大きな成果だった。保育者が繰り返し花の名前や特徴を丁寧に伝えていくことで、子どもたちは少しずつ名称を覚え、自ら言葉にしようとする姿が見られるようになり、発語を促すことにもつながった。

・また、虫に対しても興味を示す姿が見られたことから、今後はその関心をさらに深められるよう、観察や触れ合いの機会を意図的に取り入れていく必要があると感じたため、虫が見つかりやすい環境を選んだり、安心して関われるような関わり方を示したりすることで、子どもたちが主体的に関わろうとする姿を育んでいく。さらに、花と虫との関係性に気付けるような問いかけを行うなど、自然への理解がより広がり、探究心が深まるような保育環境を継続的に整えていきたい。

あじさい②　食育

１歳児クラス１５名３５分

活動

・給食のおやつであじさいゼリーを食べる。（食育）

準備したもの

あじさい、おやつ

〇活動内容

・おやつであじさいゼリーを食べ、季節を感じながら食べる事を楽しむ。

〇保育者の問いかけやアプローチ

・午前中の活動の際に、あじさいゼリーがおやつに出ることをあらかじめ伝えることで、子どもたちの期待感を高め、活動と生活のつながりを意識できるようにする。また、あじさいゼリーと同じ色のあじさいを用意してテーブルに飾ることで、視覚的な気付きや興味を引き出し、実物と食べ物とを結び付けて考えられる環境を整えた。

・関わりの中では、「同じだね」「何色かな？」「むらさきだね」「どっちがおいしそうかな？」といった声掛けを通して、色や形への気付きを促すだけでなく、「どうして同じ色なんだろう？」「ほかにはどんな色があるかな？」など、子どもが考えたり言葉にしたりするきっかけとなる問いかけを大切にした。

・さらに、「さっき見たあじさいと似ているね」と経験を結び付ける言葉を添えることで、記憶や体験のつながりを深め、理解や興味の広がりにつなげた。

○子どもの様子

・あじさいゼリーを見て、実際のあじさいと色が同じであることに気付く子どもの姿が見られた。視覚的な共通点に気付くことで、身近な自然と食べ物がつながる体験となっていた。

・「ゼリーおいしいね」「きれいだね」「おなじだね」といった言葉が子どもたちの中から自然に出ており、保育者や友だちとやり取りをしながら、楽しく食べる時間となっていた。味わうことに加えて、見て感じたことや気付きを言葉にすることで、食事の時間がより豊かなコミュニケーションの場となっていた。

○振り返り

・活動を通して、普段はゼリーが苦手な子も「食べてみよう」とする姿が見られ、見た目の楽しさや雰囲気が食への意欲につながっている様子がうかがえた。経験や環境によって、苦手意識よりも「やってみたい」という気持ちが引き出される場面となっていた。

・1 歳児にとってはゼリーだけでは「あじさい」と結び付けて理解することが難しいため、実際の花をテーブルに飾ることで視覚的な手がかりを増やし、イメージしやすい環境を整えた。実物を併せて提示することで、子どもたちが見ているものと体験していることがつながりやすくなり、興味や理解を深めるきっかけとなっていた。

あじさい③　制作

1 歳児クラス１５名６０分

活動

・製作

準備したもの

あじさい、絵具、洗濯のり、画用紙、模造紙、ボトル、スポンジ、輪ゴム、写真

○活動内容

・あじさいの花を見ながら、季節の製作を楽しむ。

・自由に好きな色を使って作品を作っていく。

○保育者の問いかけやアプローチ

・子どもたちがあじさいに興味を示していた姿を受けて、実際のあじさいの花を見ながら製作に取り組

めるよう環境を構成した。実物に触れたり観察したりしながら表現することで、イメージを具体的に持ちやすくなり、興味や意欲の持続につながった。
・製作の中では、「あじさいだよ」「同じだね」「何色のあじさいにする？」といった声掛けに加え、「どこが似ているかな？」「ほかにはどんな色があるかな？」などの問いかけを行い、子ども自身が気付いたことを言葉にしたり、自分なりに考えて選択したりできるよう関わった。こうしたやり取りを通して、表現する楽しさとともに、観察力や思考の広がりを促した。
・また、一人ひとりが落ち着いて取り組み、集中して製作を楽しめるよう、少人数ずつ順番に行う形をとった。個々のペースや思いに丁寧に寄り添うことで、満足感や達成感を味わえるようにし、主体的に活動へ関わる姿を大切にした。

○子どもの様子

・製作の中で、子どもたちは実際のあじさいや完成した作品を見ながら、「あじさい」「これ、同じ」と指を差して表現する姿が見られた。実物と自分の作品がつながっていることを感じることで、興味や気付きが深まっていた。
・また、スタンプ遊びでは、複数の色の中から好きな色を自分で選び、繰り返し押すことを楽しんでいた。色や形が変わっていく様子を感じながら、自由に表現することに夢中になって取り組む姿が見られた。
・出来上がった作品を指さして嬉しそうにする姿や、写真や実物のあじさいと見比べて「同じだね」と保育者とやり取りする姿も見られ、自分の表現への満足感や達成感につながっていた。
・また、製作が終わった後も「もっとやりたい」と繰り返しスタンプ遊びを楽しむ姿があり、興味や意欲が持続していた。一人ひとりの「やりたい」という気持ちを受け止めながら、納得するまで取り組める経験となっていた。

〇振り返り

・目の前にあじさいの花を置き、実物を見ながら製作を行うことで、子どもたちが「なにを作っているのか」を視覚的に捉えやすくなり、安心して活動に参加する姿が見られた。実際の花を見ながら進めることで、色や形に興味を持ち、保育者と一緒に見たり触れたりしながら楽しむことができていた。

・また、絵の具をいくつかの色で用意することで、子どもたちは自分で好きな色を選び、指や筆を使いながら自由に表現することを楽しんでいた。色の違いを感じながら、思い思いにのびのびと取り組む姿が見られ、表現する楽しさにつながっていた。

・さらに、少人数ずつ行うことで、一人ひとりの様子を丁寧に見守ることができ、安心した環境の中で落ち着いて製作に取り組むことができていた。保育者とやり取りをしながら、集中して活動に向かう姿が見られ、それぞれのペースに合わせて楽しめる時間となっていた。

あじさい④　草花あそび

１歳児クラス１５名３０分

活動

・自然物遊び

準備したもの

あじさいの花、ホウの葉、R１ボトル、レンゲ、器

〇活動内容

・あじさいやホウの葉を実際に触って遊ぶ。

〇保育者の問いかけやアプローチ

・保育者が「ちぎちぎしてごらん」と声をかけながら、実際に手元で見本を示すことで、子どもたちが遊び方をイメージしやすいように関わった。視覚的な提示を行うことで、安心して素材に触れようとする姿につながっていた。

・はじめは手で直接触れることを促し、子どもたちが素材の感触やちぎれる面白さを十分に味わえるようにした。その後、子どもの様子を見ながらボトルやレンゲなどの道具を取り入れ、すくう・入れるといった遊びへと発展できるよう環境を整え、遊びの広がりを大切にした。

・また、あじさいの花を使用する際には、誤って口に入れてしまわないように一人ひとりの様子を丁寧に見守り、安全に配慮しながら安心して活動に取り組めるようにした。

〇子どもの様子

・子どもたちは、指先や手を使いながら大きな葉や小さな花をちぎることを楽しみ、素材の感触を確かめるように繰り返し関わる姿が見られた。ちぎれる面白さや音、手触りなど、五感を通して素材に触れる経験となっていた。

・また、ボトルの中に花を一つずつ丁寧に入れようとし、集中して取り組む姿も見られた。入れる・落とすといった動作を繰り返しながら、手先の動きや目と手の協応を楽しんでいる様子がうかがえた。

・さらに、「においするかな？」と自分から花の匂いをかぐ姿もあり、視覚や触覚だけでなく嗅覚にも働

きかけながら、自然物への興味や関心を広げている様子が見られた。

〇振り返り

・子どもたちは、花に興味をもつ子、葉に関心をもつ子など、それぞれが惹かれるものが異なり、素材の選び方にも個性が表れていた。その違いを通して、一人ひとりの興味や感じ方の違いを改めて捉えることができた。

・また、R1 ボトルや器などの道具を、子どもたちの遊びの流れや集中の様子に合わせて適切なタイミングで提供することで、遊びが途切れることなく次の展開へとつながり、より意欲的に取り組む姿が見られた。遊びの深まりを意識した環境構成により、集中して活動を続けることができていた。

・少人数ずつ興味のある子から順番に活動に参加できるようにしたことで、一人ひとりが落ち着いた環境の中でじっくりと素材に関わることができていた。自分のペースで十分に遊び込むことができることで、満足感や安心感につながっていた。